

私のカナダ派遣

学校名 湧別高等学校
学 年 2年
氏 名 佐々木 麻帆

海外に行くという実感があまり湧かないまま始まり、自分が海外で生活をしたという事実にも実感が湧かないまま終わり、まだふわふわしている状態です。

私はこの 12 日間という長いようで短いカナダでの生活をめいっぱい楽しみ、すべての体験を学びに変え自分のものにして帰ってこられたと思います。

私が感じたカナダと日本の違いとして“食”に対する考え方が挙げられます。日本人はもったいないという感性があり、食べ物を残すことに抵抗があると思います。しかし、私が見てきた限りでは食べられなくなった食べ物を捨てることに抵抗がありませんでした。カナダの人々の食に関する考え方を否定するわけではありませんが、食べ物は何者かの命であり、誰かが作り上げてきた苦勞の結晶なので、食を大切にする日本人の文化を持って生まれて来られてよかったと感じた点でした。

敬語という完全なる概念がないところも日本とカナダの違いだと思います。例えば、日本人はありがたいの一つでも相手の立場に応じて、敬語にしたり、ラフな感じと使い分けたりしますが、向こうの人は相手が誰であれ Thank you の表現が基本でした。センキューというと私の中では友達同士で軽いノリで使う印象が強く、本当に感謝の気持ちが伝わっているのかと腑に落ちなかったです。調べてみると丁寧な表現もあるそうで、日本語と英語の間に生まれるニュアンスの差が難しいと感じました。

文化や価値観の違いはあれど、カナダの人も結局は私たちと同じ人間であり、根本的な大きな差があるわけではないような気がしました。けれども、最初は同じような生命体だったのに、育つ環境や歴史が違うと、文化や価値観にこれほどの差が出るとは人間の面白さを感じました。人について学びたいという思いが強くなり、新たに人の言語習得の過程も興味深く学びたいと思いました。

そして、この派遣で私の英語に対する考え方は変わりました。カナダに行って英語の必要さと生涯学習の大切さを身をもって感じました。カナダで英語で話すことが全然できずにすごくもどかしく、悔しいという感情を抱いたので、英語が上手くなるように努力していきたいです。

このカナダ派遣で、私の英語はお世辞にも向上したとはいえませんが、そんなことどうでもよくはないけれども、よくなってしまいうくらい、一生忘れることのできない素敵な思い出を作ることができました。私の派遣事業に携わってくださったすべての方に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました！この経験を糧にして、一人の人間として成長していきたいです。そしてまたカナダに行きたいです！